

■使用評価マニュアル：北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト：CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要

建物名称	(仮称)中川食品株式会社増築棟新築工事	BEE	1	BEEランク	B+	★★★
------	---------------------	-----	---	--------	----	-----

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.0 / 5		ふつう
2 地球温暖化対策の推進	3.8 / 5		ふつう
3 豊かな自然環境の確保	2.0 / 5		がんばろう
4 高齢社会への対応	0.0 / 5		がんばろう

※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)

評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満
-------	----------------	-----------------	-------------------

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル:	CASBEE-建築(新築) 2016年版	使用CASBEE評価ソフト:	CASBEE-BD_NC_2016(v.4.0)
1 循環型社会への貢献		スコア平均 3.0	
リサイクルに関する配慮 LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 2.6	長寿命化に関する配慮 Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数 Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 3.1 スコア 3.4
・LGSの使用で躯体との分別が容易		・熱排気、多湿排気系統のダクトはSUS製とし、長寿命化を図る。	
2 地球温暖化対策の推進		スコア平均 3.9	
省エネ・省資源に関する配慮 LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 3.7	節水に関する配慮 LR2/ 1.1 節水	スコア 4
・ライフサイクルCO2排出率69%		・自動水栓、節水型便器の採用	
3 豊かな自然環境の確保		スコア平均 2.0	
生態系保全に関する配慮 Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 1	緑化に関する配慮 Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上 LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 2 スコア 3
特になし		・敷地内の既存緑地を適宜残した増築	
4 高齢社会への対応		スコア平均 0.0	
バリアフリーに関する配慮 Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア 0	主な指標	
評価対象外		建物の外皮性能 (BPI評価) 非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級 <input type="text"/>	
		建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価) 非住宅:BEI値、住宅: <input type="text"/> 0.63	
		外構緑化指数 <input type="text"/> 25 %	
		建物緑化指数 <input type="text"/> 0 %	

: 入力欄

: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)中川食品株式会社増築棟新築工事	階数	地上2F
建設地	福岡県北九州市小倉南区長野本町4丁目1648-6他	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	25 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,400 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年4月 予定	評価の実施日	2021年2月12日
敷地面積	6,911 m ²	作成者	中野 良一
建築面積	4,637 m ²	確認日	2021年2月12日
延床面積	3,877 m ²	確認者	中野 良一

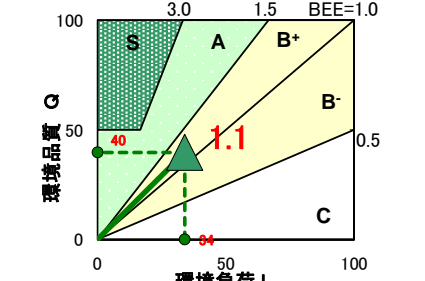


図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

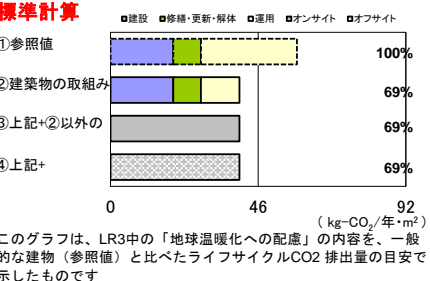
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★



2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

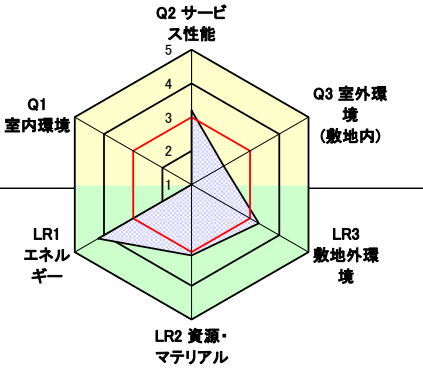
標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

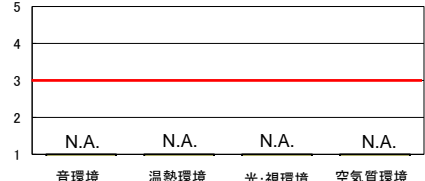


2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 2.5

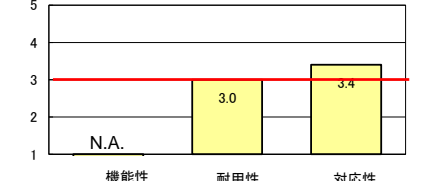
Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0



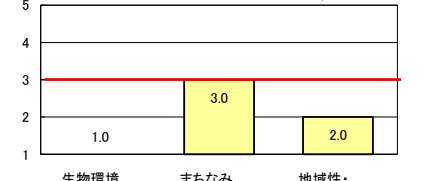
Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2



Q3 室外環境(敷地内)

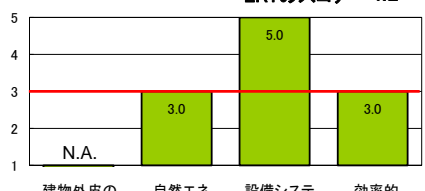
Q3のスコア = 2.1



LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.6

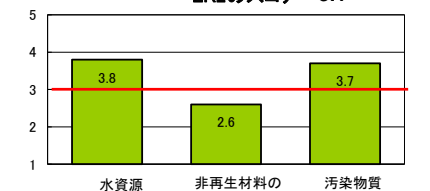
LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2



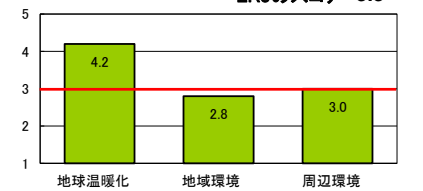
LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1



LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3



3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
・大型トラックが出入りするため、交通導線を整理した計画をしている。		
Q1 室内環境 評価対象外	Q2 サービス性能 ・熱排気、多湿排気システムのダクトはSUS製とし、長寿命化を図っている。 ・階高を高く確保、壁長さ比率を小さくすることで空間にゆとりをもたせている。	Q3 室外環境(敷地内) ・庇、ピロティを設け、夏期に日陰を形成することで暑熱環境を緩和している。 ・敷地内の既存緑地を適宜残し、増築を行う。
LR1 エネルギー ・一次エネルギー消費量の低減を行っている。	LR2 資源・マテリアル ・LGSの使用で躯体との分別が容易であり、解体廃棄時におけるリサイクルを促進する。 ・発泡剤を用いた断熱材を使用しない等、フロン・ハロンの回避に取り組んでいる。	LR3 敷地外環境 ・ライフサイクルCO ₂ 排出率を69%とするなど、地球温暖化への配慮をしている。 ・見付面積比、隣棟間隔に配慮し、建築物による風に対する抵抗等を小さくしている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
 (仮称)中川食品株式会社増築棟新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄			評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質									2.5
Q1 室内環境									
1 音環境									
1.1 室内騒音レベル									
1.2 遮音									
1 開口部遮音性能									
2 界壁遮音性能									
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									
1.3 吸音									
2 温熱環境									
2.1 室温制御									
1 室温									
2 外皮性能									
3 ゾーン別制御性									
2.2 湿度制御									
2.3 空調方式									
3 光・視環境									
3.1 昼光利用									
1 昼光率									
2 方位別開口									
3 昼光利用設備									
3.2 グレア対策									
1 昼光制御									
3.3 照度									
3.4 照明制御									
4 空気質環境									
4.1 発生源対策									
1 化学汚染物質									
4.2 換気									
1 換気量									
2 自然換気性能									
3 取り入れ外気への配慮									
4.3 運用管理									
1 CO ₂ の監視									
2 喫煙の制御									
Q2 サービス性能						0.43			3.2
1 機能性									
1.1 機能性・使いやすさ									
1 広さ・収納性									
2 高度情報通信設備対応									
3 バリアフリー計画									
1.2 心理性・快適性									
1 広さ感・景観									
2 リフレッシュスペース									
3 内装計画									
1.3 維持管理									
1 維持管理に配慮した設計									
2 維持管理用機能の確保									
2 耐用性・信頼性					3.0	0.50			3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振					3.0	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)					3.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能					3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数					3.1	0.30			
1 躯体材料の耐用年数					3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					2.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		壁:GBt12.5クロス張りまたはケイカル板t6			5.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		SUS製(熱排気、多湿排気)			4.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔					3.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔					3.0	0.20			
2.4 信頼性					3.0	0.20			
1 空調・換気設備					3.0	0.20			
2 給排水・衛生設備					3.0	0.20			
3 電気設備					3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法					3.0	0.20			
5 通信・情報設備					3.0	0.20			

3 対応性・更新性			3.4	0.50	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1 階高のゆとり	階高=7.4m		5.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ	S造		5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			2.6	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性	-		3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性	-		1.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性	-		3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性	-		3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性	-		3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保	-		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出	-		1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	-		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	防犯カメラの設置		2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	-		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制	-		-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用	-		3.0	0.13	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	BEIm=0.40		5.0	0.63	-	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.25	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	-		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	-		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング	-		3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制	-		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護			3.8	0.20	-	-	3.8
1.1 節水	自動水栓、節水型便器の採用		4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.7	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無	井水を利用		4.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無	-		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.6	0.60	-	-	2.6
2.1 材料使用量の削減	-		2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	-		3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-		1.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	-		-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	LGGSの仕様		4.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1 消火剤	ガス消火設備なし		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	発泡剤不使用		5.0	0.50	-	-	
3 冷媒	R410A		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮	CO2計算書より		4.2	0.33	-	-	4.2
2 地域環境への配慮			2.8	0.33	-	-	2.8
2.1 大気汚染防止	-		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	-		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.5	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	-		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制	-		3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	No.2 駐輪場の確保		3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	-		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音	-		3.0	1.00	-	-	
2 振動	-		-	-	-	-	
3 悪臭	-		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制	-		3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制	-		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-		3.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-		3.0	0.30	-	-	